

令和5年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 か所につき 1 枚)

会派名	新生クラブ	
出席者	功刀正広・守屋久・金井洋介・秋山祥司・渡邊愛彦	
事業名	調布市役所地下水飲料化設備について	
事業区分	①研究研修	②調査

1. 荳崎市での課題と研修・調査の目的

災害時の飲料水確保について、調布市の災害対策用地下水利用システムの視察を行い、今後の調査研究の参考にしたい。
--

2. 実施概要

実施日時	令和5年11月9日（木） 11：30～12：30
視察先	調布市役所
担当部局	調布市総務部総合防災安全課
報告内容	1. 調布市の概要
	調布市は1955年に北多摩郡調布町と神代町が合併し誕生した。調布市は東京23区の西側に位置し、狛江市、世田谷区、三鷹市、府中市などに隣接し、南側は多摩川をはさみ川崎市に面している。 面積は東西約7Km、南北約 5.7Kmで面積は21.5平方キロメートルで、東西に走る京王線で新宿まで15分という立地の良さに加え、深大寺や国分寺崖線などの多摩川の自然にも恵まれている。 また、人口は約237,000人で2000年以降の人口増減比率は102%以上で最近では106%とやや人口増加傾向にある市である。
	2. 施設の概要
災害対策を主目的として、井戸を水源とした飲料水を供給する設備として、調布市文化会館たづくり西側に災害対策用の地下水利用システムとして整備された。 地下水膜ろ過システムの膜ろ過装置は、目の細かい膜ろ過を通すことで水の安全性を高めている。 熊本地震では、地震の揺れの影響で井戸水が濁ってしまった事例でも、膜ろ過でその濁りを除去することができたとの報告もあった。 この装置は300m ³ /日以上 の揚水能力があるが、東京都の規制により10m ³ /日の揚水で運用している。また、地下水の水位を常時観測しており、水位が一定以下に下がると地下水の揚水を止める制御もされ、過剰揚水の抑制にも考慮された設備となっている。	

1. 運営状況

この装置では、災害時には1日当たり最大6万7千人分(200トン)の水を供給することができ、市役所やたづくりの災害対応に使用するほか、近隣住民の方や帰宅困難者への給水拠点として利用されている。

公共水道と地下水を日頃から併用して使用することで、地震などの有事の際に公共水道が断水しても地下水飲料化システムが生きていることで、災害時の水インフラを確保することができる。また、熊本地震の際には、地下水飲料化システムを導入した病院では自身の病院のみならず、近くで断水した病院の為にタンクに水を入れてトラックで運んだり、災害時用蛇口を開放して近隣住民に飲料水を提供するなど活用されている。

1日1人3Lの飲料水が必要だと言われているが、それだけでは生活用水や医療用水が足りなくなるので、公共施設や医療施設等、水を多く使用する施設においても地下水の導入が広がると災害に強いまちづくりにつながる。

2. 考察（これらの取り組みを蕨崎市にどう活かせるか）

災害発生時の水の給水問題について、水源の一つとして地下水の利用についての調査・研究を今後行っていく。



※写真等がある場合は添付すること